

# 広見川水系水質検査結果

採水日：令和2年7月29日

河川名	項目	水素イオン濃度 (PH) ①	浮遊物質 (SS) ②	生物化学的 酸素要求量 (BOD) ③	溶存酸素量 (DO) ④	大腸菌群数 ⑤	過マンガン酸 カリウム消費量 (KMnO4消費量) ⑥	濁度 ⑦
		基準値	6.5以上～8.5以下	25mg/ℓ以下	2.0mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/100ml以下	参考値
広見川	五郎丸橋	8.47	1.0	0.97	9.10	23,000	2.2	1.7
	大門橋	8.06	1.5	0.79	8.90	240,000	2.1	1.8
	真土橋	8.13	3.5	2.48	8.99	240,000	2.4	3.5
鰯川	鰯川河口	7.32	1未満	0.52	8.65	130,000	1.8	2.1
石ヶ内川	豊岡めがね橋	7.66	3.5	1.05	8.34	240,000	2.9	3.8
延行川	谷口橋	7.70	2.5	1.73	8.48	130,000	2.0	4.3
奥野川	奥野川河口	7.59	1未満	0.45	8.75	22,000	1.7	1.6
堀切川	J R 鉄橋	7.57	1.0	0.45	9.05	130,000	1.6	1.6
目黒川	寺橋	7.18	1未満	0.69	9.15	24,000	1.6	0.8
家地川	県境	7.46	1未満	0.50	9.10	240,000	1.5	1.7

※ 生活環境の保全に関する環境基準（環境省）「河川：類型A」（①～⑤該当：水道2級、水産1級、水浴が出来るもの）を基準値に設定しています。

水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの 水産1級：ヤマメ・イワナ等貧腐水性水域（河川上流部）の水産生物用

の部分（※）が上記環境基準に適合していない箇所です。

「みんなの川です、川を汚さないようにしましょう！」

①	水素イオン濃度 (PH)	酸性、アルカリ性を示す指標で、「7」は中性、「7」を超えるとアルカリ性、「7」未満では酸性を示します。水温によって変動し、極端なアルカリ性化、酸性化は河川に生息する水生生物等に悪影響を及ぼします。
②	浮遊物質 (SS)	溶けないで水中に浮遊している粒径2mm以下の物質の量で、数値が高いほど水が濁っている状態です。浮遊物質が多いとヘドロ等がたまったり、魚介類に悪影響を及ぼします。
③	生物化学的酸素要求量 (BOD)	水中にある有機物を、好気性微生物が分解するときに消費する溶存酸素の量です。河川の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいほど川が汚れていることになります。
④	溶存酸素量 (DO)	水中に溶解している酸素の量のこと、濃度が低下すると好気性微生物の活動が抑制され水域の浄化作用が低下します。酸素の無い川や少ない川では、悪臭が発生し、魚介類は生存できなくなります。
⑤	大腸菌群数	一般的に糞便汚染の指標とされていますが、この大腸菌群には大腸菌とよく似た性質の無害な菌も含まれています。自然界（土壌・湖沼・河川・生物など）にも多く存在します。
⑥	過マンガン酸カリウム消費量 (KMnO4消費量)	被酸化性物質である有機物等（一部無機質も含む）によって消費される過マンガン酸カリウム消費量のこと、有機物等が多いと数値が高くなります。（水道水質基準値は10mg/ℓ、快適水質目標値は3mg/ℓ）
⑦	濁度	水の濁りの程度を数値で表したものです。一般的に河川の上流部では1～10度で、下流に行くに従って50～90度程度になります。（水道水質基準値は2度以下）